

1 級第 6 回 学科試験問題の傾向・レベル分析と今後の対策

【総評】 (第 5 回との比較)

2016 年 12 月 12 日

	分析	対象問題	対策
A	各科目・範囲ごとの出題数に、変化はみられない		①②③④参照
B	「日本語」やその「語感」で正答を導ける問題が多い。	問 15、問 16、 問 20、問 30 問 34、問 37、 問 41、問 42	③④⑤参照
C	「組み合わせ問題」は、難しそうに見えるが、選択肢の組合せから正答を導ける問題が多い。	問 24、問 27、 問 32、問 48	③④⑤参照
D	多重関係や新ジョブ・カード、ストレスチェックなど、最新の情報に関する出題がなされている。	問 5、問 15、問 16、問 26	②③④参照
E	正答を導くために必要な知識のレベルや範囲は、1 級としての標準的なものである		①②③参照
F	問題のレベルは全体的には前回と同様であるが、2 科目と 3 科目が前回よりも難しくなっている	問 9、問 10、問 16、問 28、問 30、問 33	②③参照

【科目・範囲ごとの出題数 (() は第 5 回からの増減)、難易度】

科目	範囲	出題数 ()	難易度
1①	社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性の認識	1 (−1)	中が 1 問
1②	キャリアコンサルティングの役割の理解	2 (±0)	易が 2 問
1③	キャリアコンサルティングを担う者の活動範囲と義務	2 (+1)	易が 2 問
2①	キャリアに関連する理論の理解	3 (±0)	中が 2 問、易が 1 問
2②	カウンセリングに関連する理論の理解	3 (±0)	難が 1 問、中が 2 問
2③	自己理解に関する理解	2 (±0)	中が 2 問
2④	仕事・職業に関する理解	2 (±0)	中と易が各 1 問
2⑤	職業能力開発に関する理解	2 (±0)	難と中が各 1 問
2⑥	雇用管理 (人事管理・労務管理) に関する理解	3 (±0)	中が 2 問、易が 1 問
2⑦	労働市場に関する理解	2 (±0)	中と易が各 1 問
2⑧	労働法規、社会保障制度に関する理解	2 (±0)	中が 2 問
2⑨	学校教育制度、キャリア教育に関する理解	1 (±0)	易が 1 問
2⑩	メンタルヘルスに関する理解	3 (±0)	中が 3 問
2⑪	ライフステージ、発達課題に関する理解	2 (±0)	中と易が各 1 問
2⑫	転機に関する理解	1 (±0)	中が 1 問
2⑬	相談者の典型的・個人的特性に関する理解	1 (±0)	易が 1 問
3①	基本的スキル	2 (±0)	難と易が各 1 問
3②	相談実施過程において必要なスキル	2 (±0)	中と易が各 1 問
4①	キャリア形成、キャリアコンサルティングに関する教育、普及活動	2 (±0)	中と易が各 1 問
4②	環境への働きかけの認識と実践	2 (±0)	難が 1 問 (個数問題)、易が 2 問

4③	ネットワークの認識と実践	1 (±0)	易が1問
4④	自己研鑽・スーパービジョン	1 (±0)	易が1問
4⑤	キャリア形成支援者としての姿勢	1 (±0)	易が1問
5	グループアプローチ	2 (±0)	難と易が各1問
6	教育指導	2 (±0)	中が2問
7	事例指導	3 (±0)	中が2問、易が1問

【今後の勉強への指針】

対 策	
①	合格ライン (70 点) を確実にクリアするために、「毎回出題される」「頻出の基本的・基礎的な内容」を確実に理解し、得点する
②	「今回初めて出題された範囲」や「細かい数字」にとられるよりも、「1 級キャリアコンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な、基本的かつ基礎的知識を中心に習得する
③	「過去問」や「1 級青本&赤本 (赤本部分)」、「別冊キャリアの赤本」を活用し、必ず出題される「頻出分野」や「得点源となる科目・範囲・細目」の内容を把握して確実に得点できるようにしておく
④	学科試験対策用テキストである「キャリアの青本Ⅱ」と「1 級青本&赤本 (青本部分)」を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を得る
⑤	試験に慣れて、「日本語の語感による正答 (例：必要がない、必ず等) 発見」のテクニックや時間配分の技術、ケアレスミスをしなない方法を体得する 例：「最適な」「だけ」「かならず」「のみ」・・等 強調する語彙や決めつける語彙は要注意！

以上

一般社団法人 1 級キャリアコンサルティング技能士の会